みんなのひろば

農協合併と有線の問題

★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆

南国市の農協合併研究会は、去る十一月に農協の常勤役員のみにて構成発足して、すでに数回会合を重ねた由で、その間、一部代表は遠く九州へまでも視察研究に出向いて、合併への甚だ意慾的な活動振りを見せており、更に十二月十一日には非常勤をも含めた、全農協役員の会合を開いて大々的に合併へ取組む態度を明らかにしたが、その席上たまたま講師として来られた福岡県中央会の今村課長の経験談を聞いて、私も非常に感動させられた一人であるが、その話から得た結論として、合併に対する姿勢としてはあらゆる利害感情を超越して悪条件で臨むべきであることが第一点、更に合併成功への不可決の要素としては高潔な人格者で積極果敢な行動力と指導的手腕を持つ、有能な指導者を得ることが絶対必要であることを痛感させられたが、第一点の問題については担当責任者に不断の勇気と決断があって、組合員に正しい理解による協調の精神と和の精神を浸透さすことに努力すれば敢て至難の業ではない。指導者の件は現在の農協指導者にこだわることなく、広く四万市民の中から適任者を物色すれば、人材は見つかるはずだから気長く捜せばよい。

こうして十一回の会合によって農協合併研究協議会が正式に結成される運びになったが、今後一部非常勤役員を含めるとしても、会の主動権はやはり常勤役員が握るわけだから、ここに問題がある。現在の農協指導者たちは農協合併を口にする前に先づもって有線の問題を処理してかかるべきだと私は考える。有線と言い農集と言い、いまでは両頭の蛇のようにそれぞれの道へ進もうとしているが、しかし厄介なのは形ではなくして、人間と呼ぶ動物の感情である。

もともと南国有線電話は地元各農協が母胎となり、農協責任者たちを産婆役として誕生したものであるが、それから五年の後、自動化をめぐる農集の出現によって有線を混乱に導いたのも、有線の幹部とそれに繋がる農協の責任者たちであって、その問題はいまなお未解決の儘残されているが、更に現在農協の大同合併を積極的に推進しようとしているのも、同じ人達であることを考える時、何か釈然としない思いに捉われるのは私だけだろうか。

有線組合員のほとんどが農協組合員である以上、農協と有線組合とは誕生当初から現段階においても、常に密接不可分の関係であることには変わりないのだから、現在の農協指導者たちが、真に大乗的見地に立って虚心で大同合併を推進しようとする姿勢に立っているなら、この際過去の小さな感情のいざこざは一切捨て去って、元の有線電話に正常化するよう努力して、全農協組合員の融和をはかることが合併へ繋がる第一段階であると私は確信するがちがうだろうか。若しも有線問題をつんぼ桟敷へ追いあげて置いて、農協合併だけを口にするような狭量な指導者がいるなら、農協の大同合併など不可能であると私は断ぜざるを得ない。

農集電話の件については八日付けの高新紙上にも載せられているように、電話の施設費は明年度から、現行一万円が五倍の五万円程度に引きあげられるのは必至の状態にあるようだが、これでは農集申込者の打撃は相当深刻なものがあると思われるのでなお更にも、この際有線の正常化に努力することが合併推進への不動の足場となり、組合員の期待に応える所以であると私はかく信じるが故に、現農協の合併指導者たちは先づ以って視野を一転して、有線問題を正常化するようご努力を希望する。

十市　梨夫

もの もらす

みなさんの声、意見をお寄せください。

＝六百字以内＝

新年祝賀会

市では、名刺交換をかねた新年祝賀会を明春行ないます。この新年の集いは、どなたでも参加できますので、多数の方のあつまりをのぞまれています。

とき	元旦　午前10時～11時
ところ	市立体育館
会費	200円
申込み先	市役所総務課、または地区農協